

真理は勝つ

時代は迷う。何をなすべきか。何が正しいのか。すべての分野に、こうした声がみちわたっている。だがこの混沌たる中にも、勝つものは真理である。いつの時代でもただ真理だけが勝つ。

罪悪

「これだけ言ってもまだ、あなたの存在は罪悪そのものだということがわからないのですか。」

「そんなに罪の深いとは思いません。私は格別悪いことをしてはおりません。」

「では思いきつて言います。あなたが三十歳ごろには何をしていました。」

「ハイそのころは、私は化粧品商行商をしましたし、妻は村で小さい店をしていました。」

「その見すばらしかったあなたが、六十歳になった今はどれだけ身代しんだいを持っていますか。あの大きな堂々たる家に住んでいなさるあなたが……。」

「ハイちよつと申し上げかねますが……。」

「いいです。十五万か二十万か持っていないさる今、あなたの子どもたちは、女学校、中学校、そして孫までが、中等、高等の学校で勉強していなさる時、あなたの家の事業、すなわち工場でコツコツ働いている人間には、一日いくらやっています？」

「ハイ一日五十銭か六十銭です。」

「朝早くから夜まで労働させて五十銭、もちろん食事はあなたが持つのでしょね。」

「いいえ、弁当持ちで来てです。」

「長い間あなたの工場で働いた人たちの家をちよつとのぞいてください。あなたの一家が絹ぐるみでいる時、その人たちはどんな哀れな生活をしているかを。あなたの身代のすべては一代三十年にできましたか。それはいったい何なのですか。」

「……。」

「多くの人たちの汗脂をあなたが盗んだのです。」

「でも……私はずいぶん働きました。そして知恵を使いました。」

「そうでしょう。過去の人たちはあなたのような人間を賢いとほめました。しかしあなたのすべてを明るみに出してごらん下さい。あなたは月一割の高利で金を貸したことはありませんか。差し押さえを何回しました？」

「……。」

「罪悪の結晶が今のあなたの身代なのです。慈善のために殊勝らしく出す金も、麗々しく名をあげてしなさる寄付も、罪悪それ自体です。曾無一善、唯知作悪」(かつて一善無し、ただ悪を作ることを知る)とはあなたのことです。日中大きな顔して歩けますか。あなたはこの世間ながらの餓鬼です。あなたの道は滅びの道です。あな

たのような良心の腐った人間には、天道はこつびどい報いをもたらします。魂が腐っている以上、何を言ってもわかりようはありません。お別れします。」

宿命感を尊ぶ

人生の重要な問題に直面した時、あるいは血のにじむような努力を要する問題にぶちあたった時、岩壁のような宿命を感じない人は、本格的な生活者ではない。どうにかなるさ、と言つてのける人を私は浅薄だと言う。しかしいつまでもこの宿命に泣く人は、愚かな人である。この宿命的苦悩に対する戦いからのみ、本質的な無碍の行が生まれる。

自由に、相手を傷つけることなく人を愛していると思う人、自分の芸術や思想が、美しい最高峰に立っていると考えている人に、愛の問題で泣いた聖人や、キャンパスの前で画筆をなげた画聖や、たたきつけるピアノの上を指から出る赤い血と涙をもつて洗つたピアニストの心中はわからない。われらは常に、そこに絶望の宿命を感じる。だが、第三の広野はその隣室に待っている。汝を導くこの光明にみちた世界への扉は、ただ汝にのみささやかれる。

議論するのはいい。夜を徹して論理の検討をするのもいい。だが、敬虔さを失つてはならない。思いを千々に練り、あらゆる小我の独断を蹴飛ばして、生命の真实性をつかもうとする禅門の人たちが「釈迦何人ぞ、われ何人ぞ！」と人間本来の尊厳を主張しつつも、一碗の水、一片の菜葉にも合掌する奥ゆかしい心情に頭が下らないではおれない。

2

合掌の心は尊き世界の扉を開く心である。
敬虔なる心情と態度を失つて、真理を云々する人々の世界は淋しい。

人なるがゆえに

人を赦すことが尊いとせられるのは、底なき瞋憎の心を持つのが人間だからである。瞋憎の心を持たない者は、石か神かである。心の全体をあげて悩みぬいた末、やがてそれを超えたところに生れるのが広い愛でもあり、抱く心でもある。

努力

努力せずして得たる宝は失いやすく、生命をかけて求め得たものは失い難い。

努力によりて獲得せられたる真理は宝玉と輝き、努力なき人の手に弄ばれる真理は塵芥と化する。

努力はいつの場合にも報いられる。